

# 江東区内の和菓子店で

使われていた

## か し き がた 菓子木型（2）

わがし きがた えどじだい つく はじ  
和菓子の木型は、江戸時代に作られ始めたといわ

れます。とき けいか ふくざつ えがら  
時の経過とともに、しだいに複雑な絵柄が

かんが きがた しょくにん こうど  
考えだされると、木型を製作する職人にも高度な

ぎじゅつ ようきゅう  
技術が要求されました。

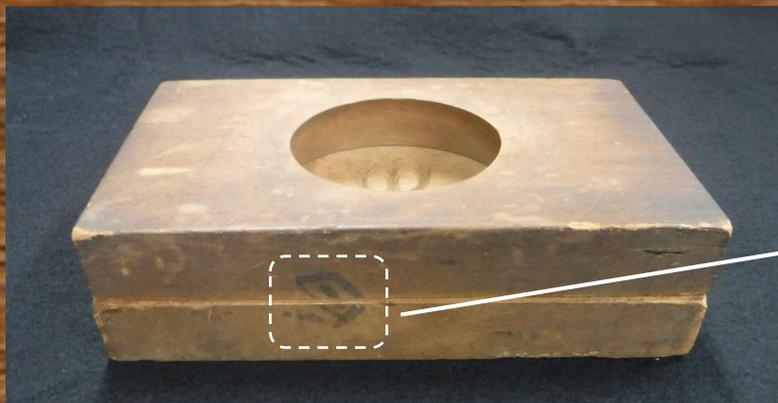
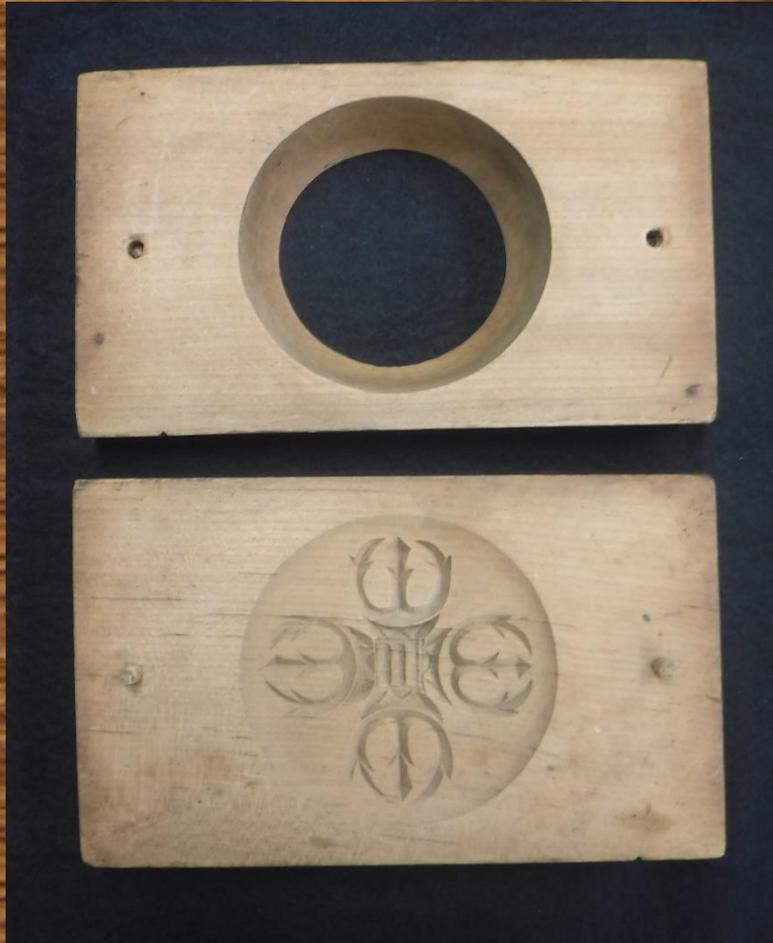
てんじひん みなみすな わがしてん はいぎょう じっさい  
展示品は南砂5丁目の和菓子店（廃業）で実際に

つか らくがん  
使われていた木型です。これらの木型を使って落雁な

ひがし うもの なまがし ねもの つく  
どの干菓子（打ち物）や生菓子（練り物）が作られま  
した。

ばあい ざいりょう つ こ  
※干菓子の場合、木型内に材料を詰め込んだあと、

よぶん すき  
余分なものをへらで擦り切ります。



とっこ しんごんしゅう  
**独鈷 (真言宗独鈷)**

墨書:「持宝院」「白」「砂町大師(トッコ)キ□□<sub>一白</sub><sub>一赤</sub>」

陰刻:「夕シロキ本店」 ※側面2箇所

横 18.4 × 縦 11 × 厚さ 5(2.4 + 2.6) cm

備考:側面に見当の陰刻あり



えび  
海老

墨書：「海老ノ形」「海老」「イビ」

横 18.3×縦 10×厚さ 4.9(2.4+2.5)cm

備考：側面に見当の陰刻あり



かめ    みのがめ  
亀 (蓑亀)

墨書:「□□□四年 / □月卅壹日」「亀」

横 18 × 縦 10.2 × 厚さ 5(2.5 + 2.5)cm



じょうとうく  
「城東区」

横(最大幅)9.4×縦(長軸)33.6×厚さ2.1~2.7 cm



はす はな  
蓮ノ花

墨書:「蓮ノ花」「□□□□」「□□□花」

「昭和十年三月」

横(最大幅)8.2×縦(長軸)33.5×厚さ4.4(2.1+2.3)cm